



おがわ うせん  
「小川芋銭」

市島の西山泊雲さんとは、はいく友だちで、とても仲よし。子どもどうしがけっこんして、ますます丹波とのつながりがふかくなりました。

「芋銭(うせん)」とは、米でなく芋が食べられる銭(お金)さえあればいい、という意味で名づけられたよ。



小川芋銭「河童図」  
個人蔵

かわいいカップ、  
こわいカップ、  
たくさんのカップを  
かいた芋銭は  
「カップのうせん」  
とよばれたよ。



とみおかてっさい  
「富岡鉄斎」

わしは学者じゃ。画家じゃない

とは言いつつ、てっさいの作品は  
せかいじゅうで大にんき。詩も字  
も絵もかけるすごい人なんだ。



ふむふむ

てっさいのお母さんは、今の春日町黒井のしゅっしんです。青垣町佐治にも友だちがいて、佐治にきて絵をかいたんだって。

てっさいは、たくさんの本をよんで学び、日本中を旅して自然の美しさを目にし、人間の本当のしあわせとは何かをかんがえました。そして学んだり、かんがえたりしたことを、のびのびとしたふでづかいで、詩と絵にかいたんだよ。



富岡鉄斎「富士山図」清荒神清澄寺



こうのばいれい  
「幸野楳嶺」

ばいれいは、氷上町成松の田中庄三郎さんのおうちに半年間、くらしていたんだ。まわりの人におねがいされて、たくさん絵をかいたよ。そのときの作品が今でも丹波ちいきにのこされています。



幸野楳嶺「雪中梅図」京都市立芸術大学芸術資料館

また、多くのすばらしい画家をそだてた先生としても有名だよ。

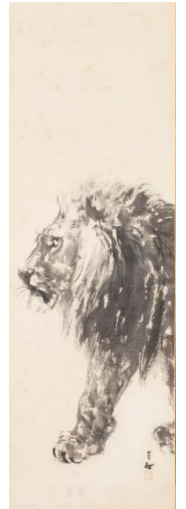
この作品は、ばいれいのかいたお手本です。これを見て生徒たちは雪のかき方を勉強したんだ。雪の白色をぬらずに、まわりにぼかした色をいれることで、雪のふんわりした感じがわかる



おおはしすいせき  
「大橋翠石」

すいせきは山南町の川代溪谷を絵にかきたいと思い、丹波にやってきました。その時、写真さつえいをおねがいの柏原町の岡林写真館さんと仲よくなり、岡林家で絵をかくこともあったんだよ。

本物のようなトラの絵をたくさんかいたので「トラのすいせき」とよばれています。



大橋翠石「獅子之図」  
個人蔵

これが岡林家の人々のまえで、さらさら〜とかいたというライオンの絵だよ。

